

「キャリア・パスポート」ステップアップ事業 事業報告書

学校名	徳島県立那賀高等学校	校長名	山本 珠紀
-----	------------	-----	-------

目標

3年間をとおして、「キャリア形成と自己実現」を目標とする。講演、研修、インターンシップなどの体験をデジタルデータで記録する「デジタル版キャリアパスポート(以下キャリアパスポートと表記)」および、キャリアパスポートに記録したデータを振り返りながら、「紙媒体のキャリアパスポート(以下キャリアパスポートノートと表記)」に簡潔に記録することにより、振り返りをし、文章をまとめる力を身につけ、さらに、経験や情報を活用する能力も養っていくことを通して、「人間関係形成能力」「自己理解能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を身につけていくことを目指した。ただし、今年度の研究対象は第2学年とする。

取組内容

1. 生徒の現状把握

(1) アンケートの実施 6月30日(木)

キャリアパスポートを使用した「キャリア形成と自己実現」を目指す前に、生徒のキャリアパスポートに対する認識や、自己実現に関して、生徒がどのような問題を抱いているかを知るため、Microsoft Forms を用いてアンケートを実施した(図1)。

(2) アンケートの結果

68%の生徒は、将来やってみみたい職業があると回答している。また、自己理解については、64%の生徒が、自分の能力や適性を理解していると答えている。しかし、一方で、進路に関してどのように情報を集めていいかわからない生徒が、55%と半数をしめていた。また、職業についても、何種類の職業を知っているかという質問に、5つ以下と答えた生徒が42%いる結果から、就きたい職業があるものの、狭い選択肢より選んでいる可能性があり、職業がわからないことから、資料収集の方法もわからないと考えられる。

学校生活の振り返りをデジタルで行うことにより、一定の効果は認められたが、1年を通してふりかえったり、興味を持った先に、どのような学習が必要で、どのような進路先があり、どのように資料を集めるかについては、学ぶ機会がなかったことに気がついた。

そこで、研究当初は、キャリアパスポートの全てをデジタル化しようと考えていたが、予定を変更し、本校においては、キャリアパスポートについては、学校生活での体験をその都度、振り返ることとし、キャリアパスポートノートについては、体験の先にある学問や、職業、進路実現の達成のための道のりのゲートウェイの役割を果たすことを目指す媒介とした住み分けを行い実践していくこととした。

2. キャリアパスポート

従来、本校では、学習記録や、模擬試験、部活などを記録し、綴じていくファイルをキャリアパスポートとして活用していた。しかし、半年でファイルがいっぱいになり、振り返りにくく、持ち運びも不便であった。そこで、Benesseの教育ICTサービスClassiのアルバム機能を利用し、本校の「キャリアパスポート」(図2-4)として、学校行事、教科学習、部活動、ボランティア活動などを記録していった。利点としては、生徒たちの携帯からでも使用することができ、活動を通して、感じた時に、都合のつく時間、あらゆる場所から記録をすることができるため、記憶が新鮮なうちに自分の思いを書き留めることができることだ。

また、生徒たちが考えたこと、感じたことなどを全教職員がタブレットをとおして読み、生徒理解をすることが可能となった。



図1

てもらい、キャリアパスポートノートを更新していくこととした。職員全員でキャリアパスポートノートを育てていこうという共通概念を持つことができた。また、キャリアが浅い教員でも、キャリアパスポートノートを見ながら指導をすることができると、どのようなことを調べれば良いか教員側から資料が提示しやすくなったなどの声があがってきた。

4. 本校のキャリア教育の取組み

本校では、毎年、キャリア教育の一環として、インターンシップを実施している。今年度も例年同様に実施し、生徒のキャリアの実現に繋げていった。

(1) インターンシップ事前学習 9月6日(火)実施

職業の種類について5つ以下しか知らない生徒、情報の集め方がわからないという生徒からの回答を受け、インターンシップ事前学習を開催した(図8)。10社の地元の中小企業に協力いただき、各企業から自社の企業内容や、その仕事がどのように社会に貢献しているか、どのような能力が必要であるか、加えて、インターンシップの心得なども講話していただいた。

事前学習のあと、生徒たちは、キャリアパスポートに、この研修で学んだことや、感想などを書き込み振り返りを行った。



図8

(2) インターンシップの実施 10月26日(水)・27日(木)実施 事前学習の後、自分の課題を設定し、インターンシップに臨んだ。(図9-11)



図9



図10



図11

(3) インターンシップ後発表会実施 11月1日(火)～2週間実施

インターンシップ後、職業体験をシェアするため、各クラスで1人1台端末を使い発表を行った。伝える力・聞く力を身につけさせるとともに、発表準備を通して自らの体験の振り返りをするを狙いとした。(図12, 13)



図12



図13

インターンシップの発表に関しては、一人一台端末を活かし、キャリアパスポートに記録したものから、発表のスライドを作成し、一人ずつ発表していった。体験だけでは

なくクラスの生徒が、その発表を聞いてどのように感じたかを共有するため、聞いている生徒は、プリントに発表を聞いて感じたことを書き、後に担任の先生がワンペーパーにまとめて配布をおこなった。

クラスメートからの感想を見て、職場体験の共有はもちろんのこと、共感してくれたり、褒めてくれたりしている感想を見ることにより、自信に繋がった生徒や、クラスを前よりも好きになった生徒もたくさんいた。担任の先生からは、信頼関係が深まり、クラスがまとまってきた気がするとの意見もあった。

5. キャリアパスポートを使用した取り組み実施 2月8日(水)実施

ホームルーム活動にて、デジタルキャリアパスポートから、紙のパスポートへとまとめながら、1年間の振り返りや、次年度への目標を定める授業を行った。(図14-17)



図14



図15



図16



図17

授業では、キャリアパスポートに記録した資格の記録や、部活動や学校行事を通して学んだことが、どのように就職や進学で活かされていくのかを丁寧に説明し、また、キャリアパスポートノートに書くにあたっての留意点などを説明した。

2. 事後アンケート

(1) 生徒の感想より

① キャリアパスポートについて

○デジタルであれば、バスの中でも、部活動の試合が終わった会場からでも、どこからでも書き込むことができ、自分の思いが鮮明なうちに書き込むことができるのが良い。

○漢字の間違いを気にすることなく、どんどん書き込むことができる。

○消去も、書き足しもデジタルなので簡単にできる。

②キャリアパスポートノートについて

○ノートを書きながら、進学や就職に、学校生活において私が見たことや、感じたこと、そして体験などが、どのように活かされてくるのかが良く理解できる。

○ノートに書くために、デジタルパスポートを読み返していくと、忘れかけていた、うれしかったこと、悔しかったことがよみがえってくる。

○デジタルに書き込んでいたので、紙媒体もまとめ易かった。

(2) 教員の感想より

○キャリアパスポートとして使用している Classi は、全ての教員が全ての生徒のパスポートにアクセスできるので、専門の知識を持った教員から、情報を得やすい。

○初めて担任をしたり、初めて3年生を担当しても、キャリアパスポートノートがあれば HR 活動を通して、進路指導をすることができる。

○まだ、卒業生のパスポートはないが、これから、キャリアパスポートが完成していくと、後輩たちの道しるべにもなると思うし、進路指導の参考にもなると期待できる。

6. まとめ

本事業を始める前は、キャリアパスポートとは何かがわからない生徒、知っている職業が5つ以下であると答えた生徒が約50%前後であったが、現在では、キャリアパスポートを知っている、また、職業を8つ以上言えると答えた生徒は、ほぼ100%であった。教員についても、キャリア教育や、進路指導をどのように指導するのか、経験の浅い教職員を中心に「わからない」と答える確率が高かった。加えて、毎年3年生の進路指導になると、履歴書や面接指導に関して、90%近くの教員が「大変である」という思いを抱えていた。今回、キャリアパスポートと、キャリアパスポートノートを併用することにより、生徒は、学校生活で学んだことや、思い、目標などを自由にキャリアパスポートに書き込むことができ、教員は、学年、クラス、そして科を飛び越えて生徒の情報を共有だけではなく、進路情報に関しても共有が容易になり、横断型の指導方法を構築することに繋ぐことができる。今後、一人一人の生徒の進路実現にむかって個別最適な教育が提供できるものになると考えられる。

次年度より、全学年に取り入れていく全職員が生徒情報を常に共有できる環境の構築と、生徒がキャリアパスポートおよび、キャリアパスポートノートを通して、在学中だけではなく、卒業後も、自ら考え、キャリアをプランニングできる能力の養成に繋げていきたい。

最後に、本校が令和4年度キャリアパスポート事業を進めていくにあたり、埼玉県立岩槻高等学校の先生方、高知県立豊岡高等学校の先生方が温かく受け入れてくださり、惜しみなく、各校のキャリアパスポートや指導案を公開して下さったことに関して、お礼を申し上げます。

研究の成果と課題

(成果)

携帯電話を含む ICT の活用により、バスの中や、部活動の試合が終わった会場からでも、感じたことや、これからの目標が、鮮明なうちに記録することができるキャリアパスポートは、生徒にとっては、利用しやすいと思い、実際に使用し、画像をも保存している生徒がたくさんいることがわかった。ただし、その膨大な量から、書きっぱなしになるデメリットもあり、必要な情報を取り出すことが困難であるデメリットもある。キャリアパスポートノートを使用することによって、データのまとめ方や、学校生活で考えたり、感じたりすることが、いかに将来の進路につながっていくかを理解するという成果に繋がることわかった。教員は、キャリアパスポートノートから、その生

徒にとって、進路に必要な資料は何かを考え、情報を収集をすることができ、更に、生徒理解を深めるために、キャリアパスポートの情報を探っていくという生徒とは、反対のルートをたどることにより、生徒に関するより一層の理解が深めることができた。

加えて、キャリアパスポートノートがあることで、どの先生も、自信を持って進路指導することが可能になると同時に、クラス、学年、学科を超えた情報交換も自然とできるようになってきた。

(課題)

現在、Classi のソフトを利用し、デジタルパスポートを使用しているが、ソフトが使用できなくなった場合の対策を考えておかなければならない。加えて、那賀高校に在籍する全教員が、Classi を使用することができるよう、毎年1回は、研修を行う必要もある。また、キャリアパスポートノートを使用した授業に関しては、「人間関係形成能力」の育成に課題が残る。インターンシップの発表会のように、キャリアパスポートノートを使用しながら、グループ活動などを取り入れていく展開とその効果を探っていきたい。

次年度は、3 学年全てにキャリアパスポートを実施させていくために、学校全体で、キャリアパスポートおよびキャリアパスポートノートに対する共通認識を持ち、生徒のキャリア育成のサポートをしていく体制作りが課題となる。キャリアパスポートノートを育てていきながら、那賀高等学校オリジナルのキャリアパスポートノートの完成を目指し、キャリア教育を定着させていく必要がある。